

News

「埼玉アイスアリーナ」が竣工し、1日にオープン

JFEシビル システム建築「メタルビル」採用。新タイプの座屈拘束プレースなど新技術を適用

JFEシビル（本社：東京、藤井善英社長）がシステム建築「メタルビル」を採用し埼玉県上尾市に建設中の「埼玉アイスアリーナ」が完成し、11月1日にオープニングイベントが行われた。同アリーナには新タイプの制振プレースなど新技術・新工法が豊富に採用されている。竣工式には藤井社長が出席し、県首脳らと共にテープカットに臨んだ。

「埼玉アイスアリーナ」は埼玉県初の国際規格通年型アイスリンクで、延床面積約5,300m²。鉄骨は約350t使用し、設計・施工はJFEシビルが担当した。

同アリーナに採用された「メタルビル」は従来工法に比べ約15%工期を削減し、耐震性能をアップする豊富な新技術を取り入れた。ひさしの頸杖材として新タイプの高性能座屈拘束プレース「J-UPプレース」、柱-梁間に二重鋼管座屈補剛プレースを用いた「ニーブレース工法」を採用し、耐震性能を飛躍的に高めた。基礎には杭と柱を一体化させ基礎梁を省略

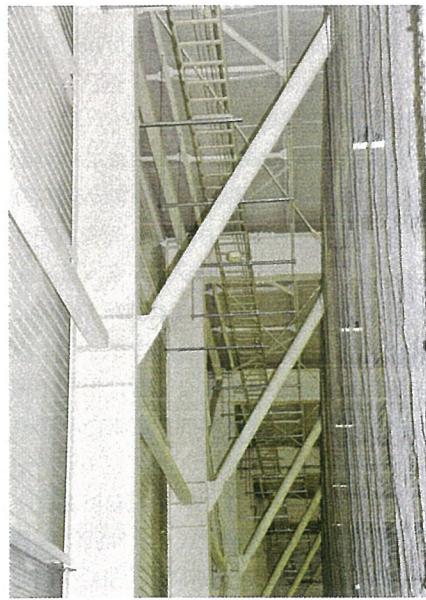


埼玉アイスアリーナの内観

する「キャップ式いちはら基礎工法」を採用して、工期を大幅に短縮した。この他、屋根はガルバリウム鋼板を用いた「Kルーフ」、壁には表裏の間に断熱材を入れたサンドイッチパネル「KBパネル」など

が採用されている。

オープニングイベントでは、埼玉栄高校と同校OBによるアイスホッケー試合やフィギュアスケート選手、浅田舞さんによるアイスショーなどが行われた。



柱-梁間に採用した「二重鋼管座屈補剛プレース」



スケート教室やカーリングに利用、演出用照明を兼ね備えたサブリンク